



# ひ ゆ ー ま ん ら い つ

第74号 平成19(2007)年 1月

## すべての拉致被害者の一日も早い帰国実現を！！

**解決を願う一人ひとりの声は何よりも強い力となり、  
拉致問題の早期全面解決を実現します。**

米子市和田町出身の松本京子さんは、昭和52年(当時29歳)に、自宅近くの海岸付近で行方不明になりました。そして、平成18年11月20日に全国で17人目(鳥取県内で初)の北朝鮮による拉致被害者として政府の認定を受けました。

今年度本市は関係団体と連携し、松本さんの早期帰国の実現に向けたシンポジウムの開催や「拉致問題その他北朝鮮当局による人権侵害問題への対処に関する法律」第4条第3項に基づき世論を高めるための市民啓発などを実施しています。

県内では、松本さんだけでなく、少なくとも3人の方について拉致の可能性が指摘されています。拉致は北朝鮮当局による国家的犯罪行為であり、重大な人権侵害です。拉致問題の解決は国の責務として、政府はすべての拉致被害者の生還を実現すべく全力で取り組む方針を示しています。解決を願う国民の声が、政府を後押しし、松本さんをはじめとする拉致被害者の早期帰国実現への大きな支援となります。皆様のご支援をお願いします。

### 拉致問題の早期解決を願うつどい

平成18年度人権協働ネットワーク「ミニシンポジウム」実施事業 とっとり県民カレッジ連携講座

**日時** 2007年2月10日(土)  
13:30~16:00

**会場** 米子コンベンションセンター  
小ホール

**講演** 「北朝鮮問題と人権」

特定失踪者問題調査会代表 荒木 和博

#### ミニシンポジウム

- ◎ **シンポジスト** 安田壽朗(弁護士)、松本 孟(松本京子さんの兄)、矢倉 修(第17期米子市立美保中学校同級生松本京子さんを支援する会)、妹原 仁(ミニシンポジウム実行委員会)
- ◎ **コーディネーター** 荒木和博

**入場無料です**

**手話通訳があります**

### 同時開催 横田めぐみさん・松本京子さん写真展

**会期** 2007年2月10日(土)~15日(木)  
10:00~17:00  
・13日は休館日 ・最終日は15時まで

**会場** 米子市文化ホール 展示室  
後援：あさがおの会

#### ■主催/拉致問題の早期解決を願うつどい実行委員会

(特定失踪者問題調査会・第17期米子市立美保中学校同級生松本京子さんを支援する会・松本京子さんを支援する同僚の会・和田校区自治連合会・米子市)

連絡先●米子市道笑町3-46 ☎(0859)35-2837

## ブルーリボンとは？

ブルーリボンは拉致被害者の生存と救出を信じる意思表示です。

ブルーは、拉致被害者の祖国日本と北朝鮮を隔てる「日本海の青」と被害者とご家族を唯一結んでいる「青い空」をイメージしています。



## 第32回米子市人権・同和教育研究集会

～ みんなで差別をなくし 幸せな社会を実現しよう ～

1月18日、米子コンベンションセンターを主会場とし第32回米子市人権・同和教育研究集会を開催しました。保育園・幼稚園・学校・家庭・地域・職場などが行政と一体となって人権教育の推進を図り、一人一人が人権に対する意識を高め学習活動の充実を図ろうと、約800名が参加しました。

全体会では、中学生の人権作文、企業における人権問題への取組みの発表がありました。また、「身近にある人権 必要とされている喜び」と題して大分県佐伯市観光大使の矢野大和さんが講演されました。

分科会では8つに分かれ、学校・職場・地域などで起こっている人権問題の現状と課題などについて話し合われました。

多数のご参加ありがとうございました。



↑講演中の矢野大和さん

## 「存知ですか？」 困った時の相談機関

### ODV(ドメスティックバイオレンス)

…夫婦間・パートナー間の暴力

県(西部総合事務所) ☎(0859)38-2250

夜間(22:00～8:30) ☎(0858)26-9807

市(福祉課) ☎(0859)23-5151

### ○職場でのセクシャルハラスメント

国(鳥取労働局) ☎(0857)29-1709

### ○介護に関する相談

米子市社会福祉協議会

(西部地域介護実習普及センター)

☎(0859)23-5470

## 今月の本棚



### 「野の花診療所まえ」

(2002年5月 講談社)

徳永進 著 1,575円

長年務めた大病院を辞め、鳥取市内でホスピスケアのある診療所「野の花診療所」を2001年開業。近頃よくいわれるインフォームドコンセント(納得治療)をとことん実践するかたわら著書多数。野に咲く花のように自分らしく生き、自分らしく死ぬ。そんな願いを実現したくて、診療所をひらくまでの日々。患者と治療チームとの日常生活からインフォームドコンセントの必要性がわかりやすく書かれています。

### 館長の

### 人権コラム

このところ、政治でも企業でも「説明責任」が問われる事象が続発していますが、医療においても患者によくわかるように説明することが大切になってきています。

例えば、がんの「告知」については、ここ半世紀いろいろと論じられてきています。「問題は医者の中から出る言葉をどう表現するのにかかっている」と『野の花診療所まえ』で徳永進さんは書いています。

「告知」というと「説得する」「宣告する」「告げる」「伝える」「伝わる」…皆さんはどれが最も腑に落ちますか？ちなみに徳永さんは患者やその家族に「伝わる」ように「白状する」、患者と医療者の関係をつくるのが望ましいのではと書いています。つまり、インフォームドコンセントです。私たちの日常生活でも、対等で信頼し合える人間関係を築いていくことが大切ではないでしょうか。



米子市人権情報センター(人権政策課内)

URL: <http://www.yonago-city.jp/jinken/index.htm>

米子市東町161-2 TEL0859-37-3183 Fax0859-37-3184